

2025年大阪府訪問看護実践研修事業 教育ステーション事業

泉南ブロック

つながる訪問看護ステーション

加藤 裕子

目標

- 多職種向けACP研修の実施により、地域でACPが実践できる人材を育成する
- 継続的に研修を実施することにより、泉州地域で働く訪問看護師の知識・技術の向上を図り、信頼を得られる質の高い看護サービスの提供を目指す
- 泉州地域内での訪問看護ステーションの横のつながりを広げ、シームレスな医療・介護の連携を図ることができる

事業計画内容

1. 研修事業

- 精神科訪問看護に関する研修（ハイブリッド）
- 在宅での褥瘡ケア研修（集合）
- 誤嚥を防ぐケアについての研修（ハイブリッド）
- 多職種向けACP研修（集合）

2. コンサルテーション

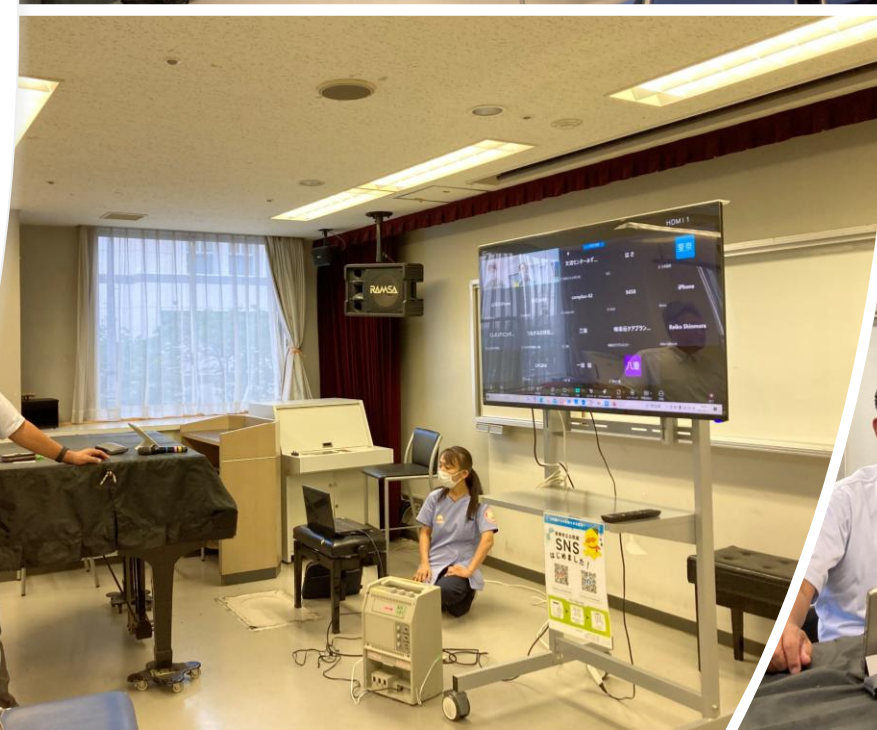
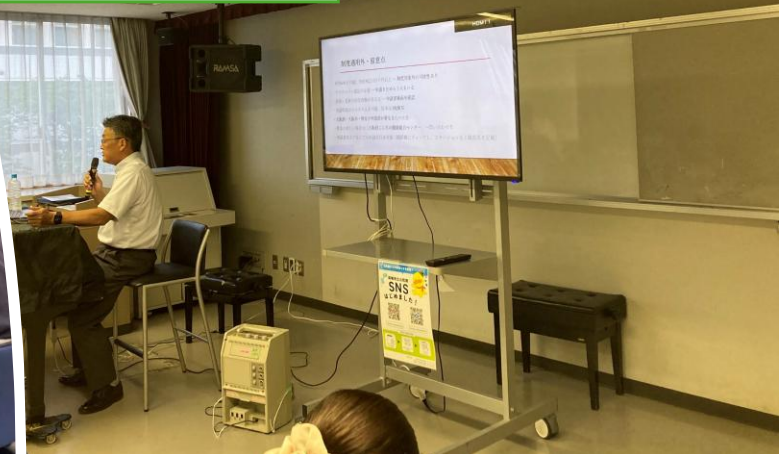
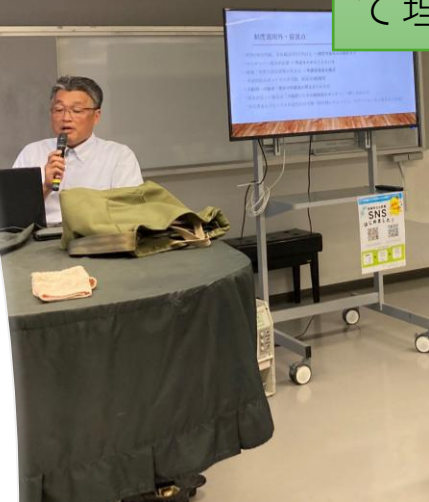
- ブロック内での専門的知識・技術の向上を図り、質の高い看護が提供できるように支援する

（対応可能な内容：ストーマケア・褥瘡ケア・エンドオブライフケア・家族支援など）

精神科訪問看護の ここが知りたい！ ～訪問看護の制度 と対応が難しい方 へのかかわり方～

目標：
精神科訪問看護の基本的な制度について理解し、利用者への対応方法を学ぶ

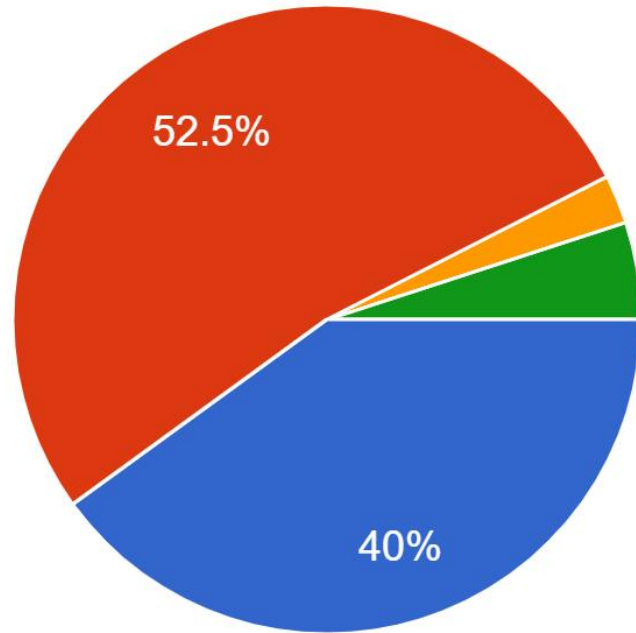
2025.6.13開催
於：貝塚市中央公民館
& Zoomハイブリッド
講師：
訪問看護ステーション
しあわせクローバー
管理者 竹内賢治氏
参加者40名



精神科訪問看護研修アンケート結果

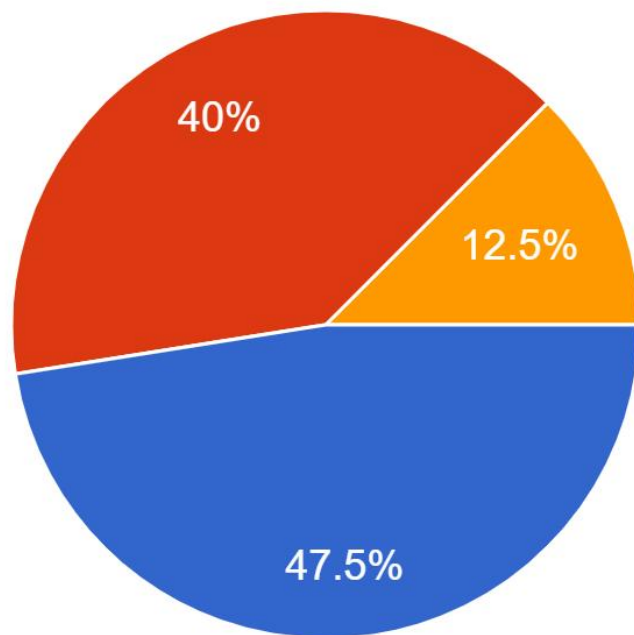
研修内容は理解しやすかったですか
40 件の回答

92.5%が「わかりやすかった」と回答



- とても分かりやすかった
- わかりやすかった
- 普通
- 少しわかりにくかった
- わかりにくかった

研修の内容は業務に役立つものでしたか
40 件の回答



87.5%が「役立った」と回答

- とても役立った
- 役立った
- 普通
- あまり役に立たなかった
- 役に立たなかった

- 精神症状ばかりにとらわれず、まずは身体的側面をアセスメントしを看護することの重要性を学べた
- 生理的欲求を観察し、その人の行動原理を理解する必要性を再確認できた
- 対応に困るときは抱え込まず相談することの大切さがわかった

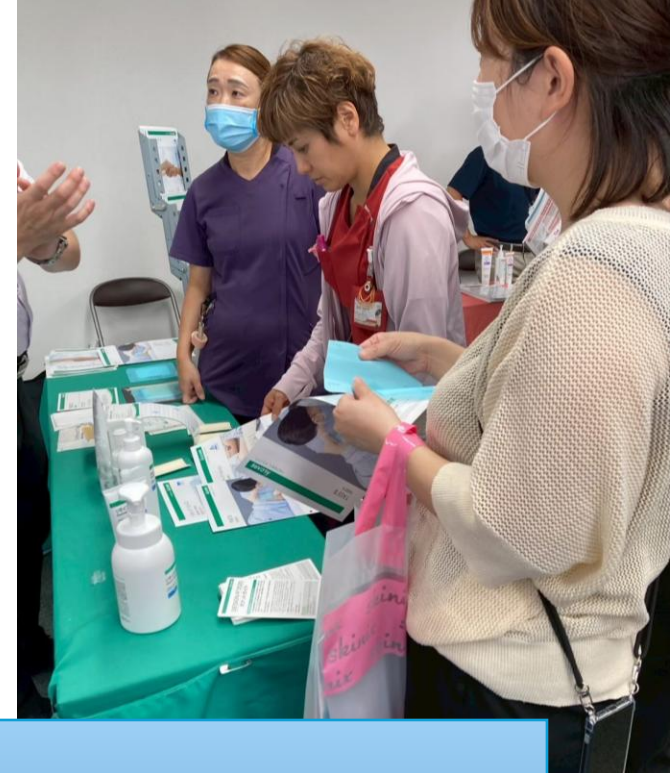
～実践的～ 在宅褥瘡ケア 研修会

- 2025.9.20開催
- 於：テクスピア大阪
- 参加者：29名
- 講師：森本伸一郎氏
- N-art訪問看護ステーション
- 皮膚・排泄ケア認定看護師



目標：

在宅における褥瘡予防・管理の基本を理解し実践できる



在宅褥瘡ケア研修会アンケート結果

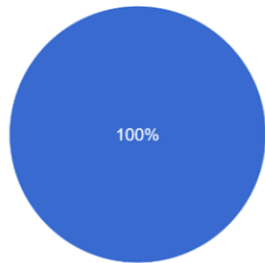
研修内容は理解しやすかったですか
20件の回答



- とても分かりやすかった
- わかりやすかった
- 普通
- 少しわかりにくかった
- わかりにくかった

全ての参加者から「とても
分かりやすかった」「とて
も役立った」という高評価

研修の内容は業務に役立つものでしたか
20件の回答



- とても役立った
- 役立った
- 普通
- あまり役に立たなかった
- 役に立たなかった

- DESIGN-Rを用いて評価しケアを進めていくのは早期治癒に繋がると思うので実践していきたい。
- 褥瘡の局所の評価と環境の評価を適切に行えるようになりたいと思う。実務に活かして経験を積んでいきたい。
- 今まで曖昧に評価していることが多かったので、創部の評価方法について詳しく学ぶことができた
- 具体的な症例を提示しながら説明されわかりやすかった
- 症例を通して、自分でDESIGN-Rを考えたことが役に立った。普段理解できずに評価していた。
- 炎症期と増殖期の見分け方、釣り糸ドレナージ方法など局所の治療に役立つ知識が得られた。全身的な環境面も在宅での限界と戦いながら、より良い方法を提案していきたい
- DESIGNを全て理解しようとするのではなく、重要な項目にしばらく考えることで、苦手意識が薄れ実践できそう

『安全に食べる』を 支える日常ケア の実際」 研修会



目標：
誤嚥性肺炎による状態悪化や入院を防ぐための知識・技術を
身につけ実践できる

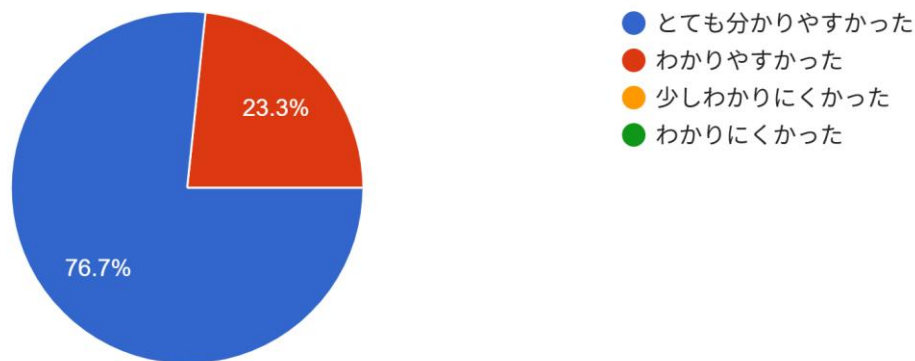
2025.11.14開催
於：貝塚市中央公民館
& Zoomハイブリッド
参加者：30名
講師：梅本通代氏
市立岸和田市民病院
摂食・嚥下障害看護認定看護師



安全に「食べる」を支える日常ケア 研修アンケート結果

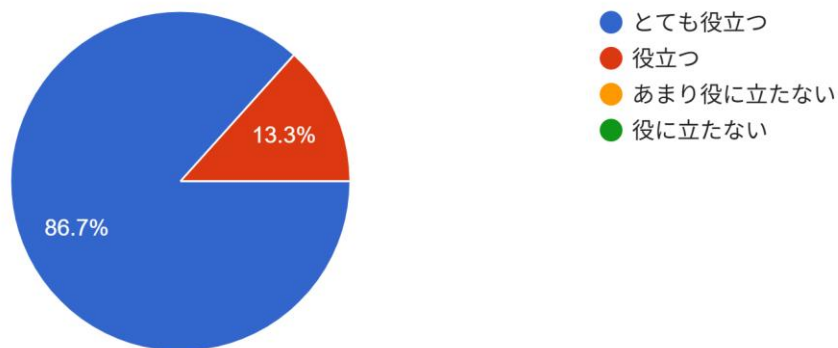
研修内容は理解しやすかったですか

30件の回答



研修内容は実践に役立つものでしたか

30件の回答



- 正常な嚥下のしくみを理解できた
- 嚥下の仕組みがイメージしやすくなった
筋肉を意識してパタカラや嚥下体操をしたいと思う
- 嚥下体操の意味を考えながら実施する
- 在宅でもすぐにできる嚥下評価や、実際に行っているパタカラ体操やおでこ体操が具体的にどこの筋肉に効くのかなど教えていただきとてもよくわかりました
- 食事の時に観察するポイントがわかった
- 嚥下機能を低下させないように、講義で学んだ訓練を日常ケアに取り入れていきたいと思う

人生会議 (ACP) 支援実践 人材育成研修

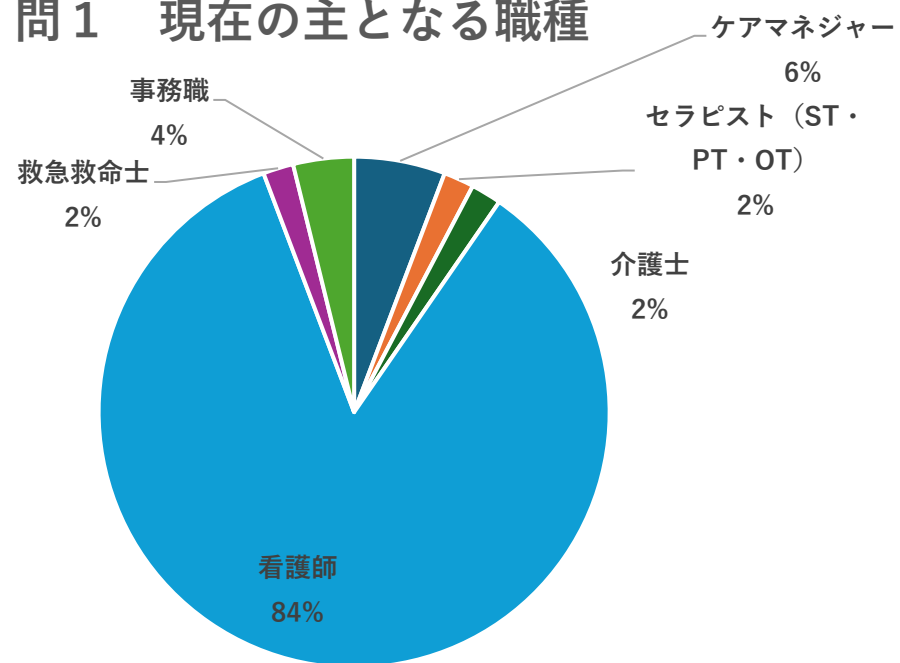
目標：ACPの目的や実践方法を学び、
地域住民に向けた実践ができるよう
支援する

2025.10.18開催
於：熊取町交流センター
すまいるズ煉瓦館
コットンホール
参加者：50名

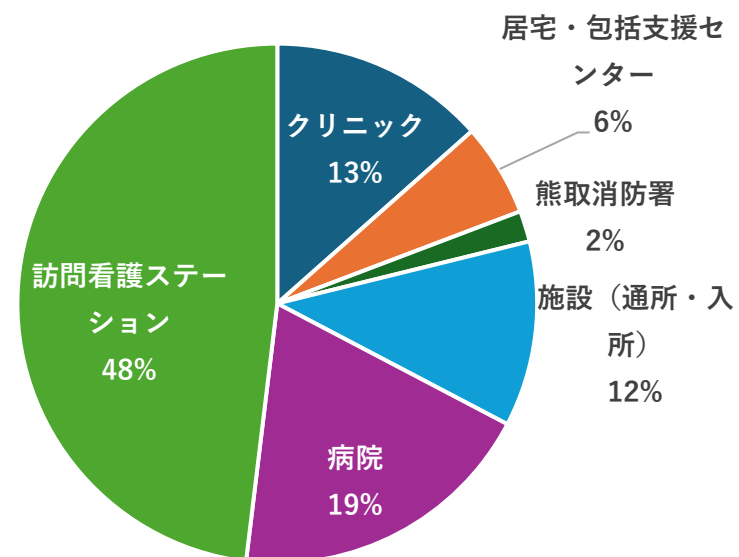


ACP研修 アンケート結果（受講前）

問1 現在の主となる職種

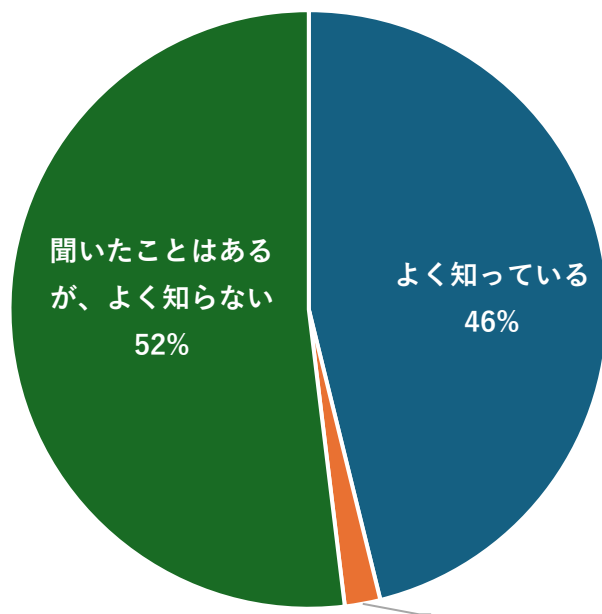


問2 現在の主となる所属先

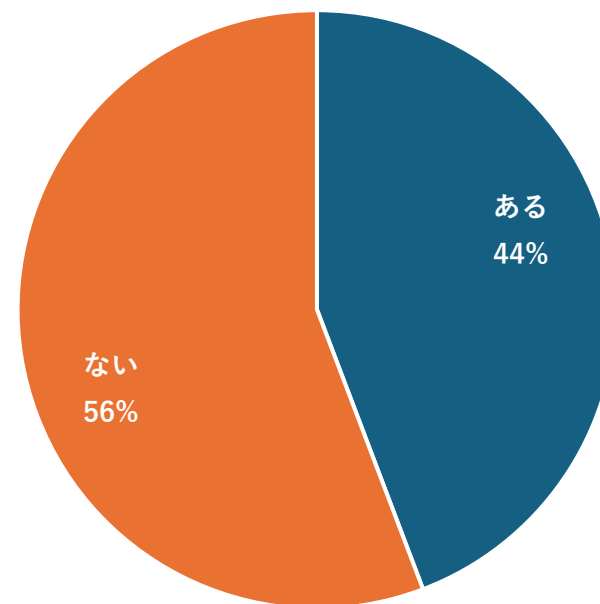


ACP研修 アンケート結果（受講前）

人生会議（ACP）について知っていましたか

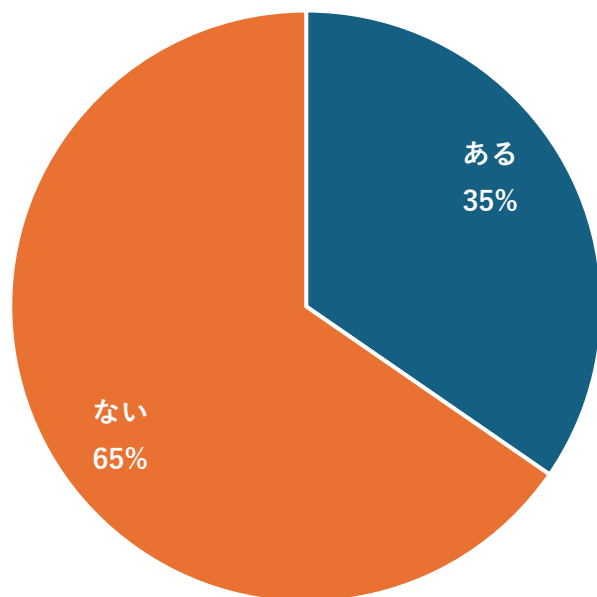


ACP研修を受講したことがあるか

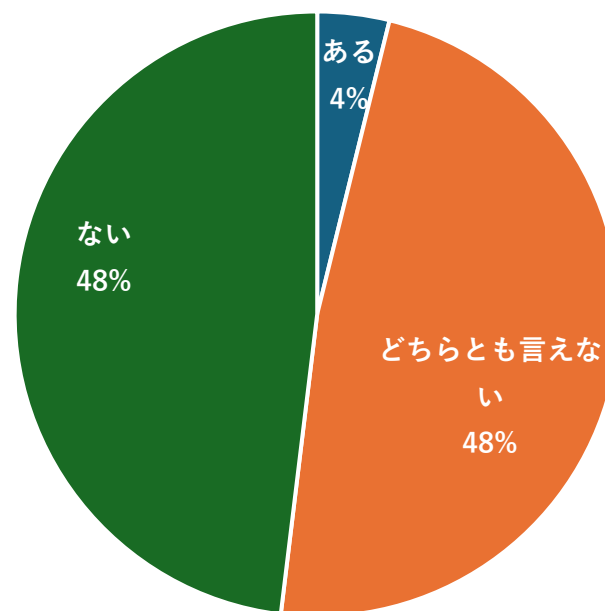


ACP研修 アンケート結果（受講前）

問5 ACP実践の経験はありますか

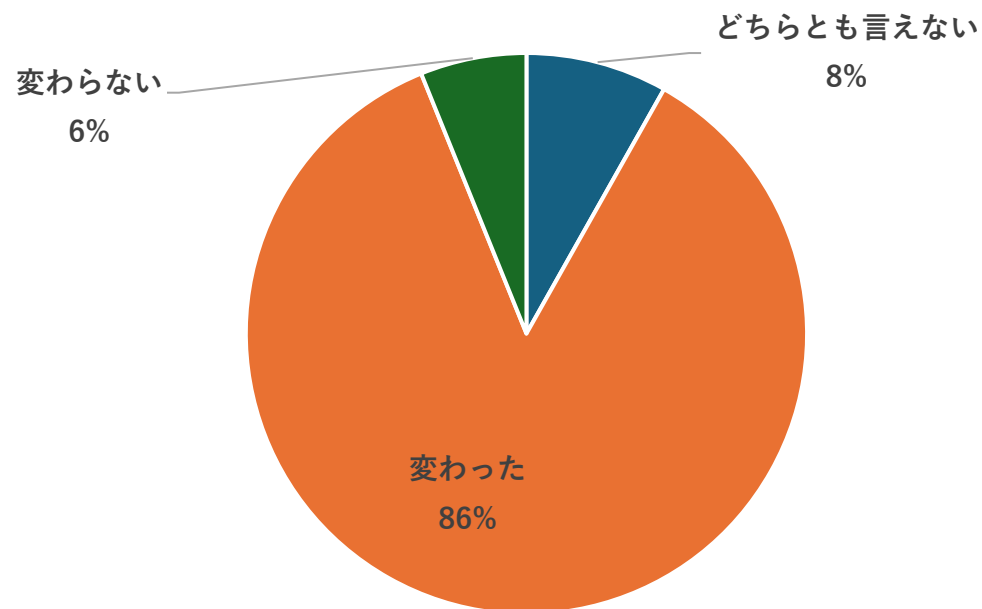


問6 ACP実践の自信はありますか

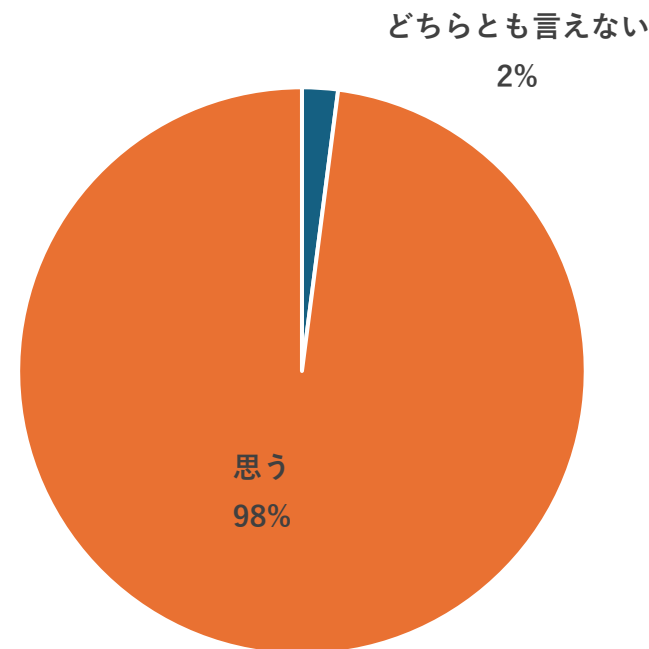


ACP研修 アンケート結果（受講後）

研修受講前後でACPのイメージは変わりましたか

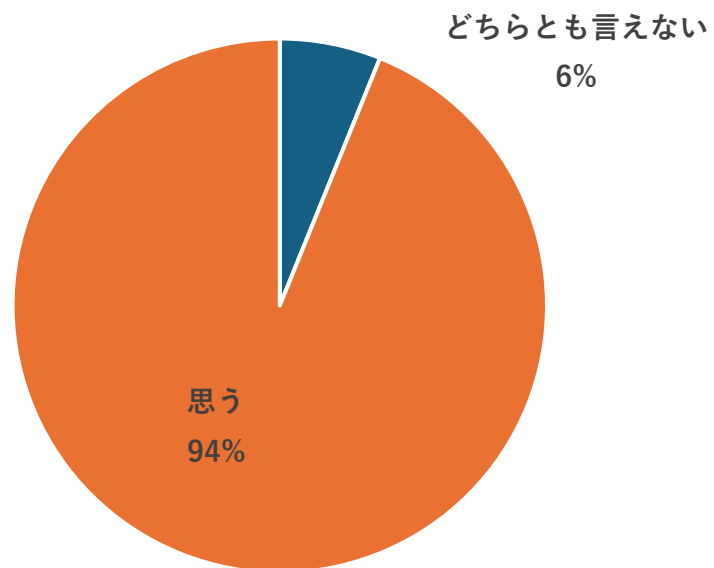


今後ACPを実践しようと思いますか

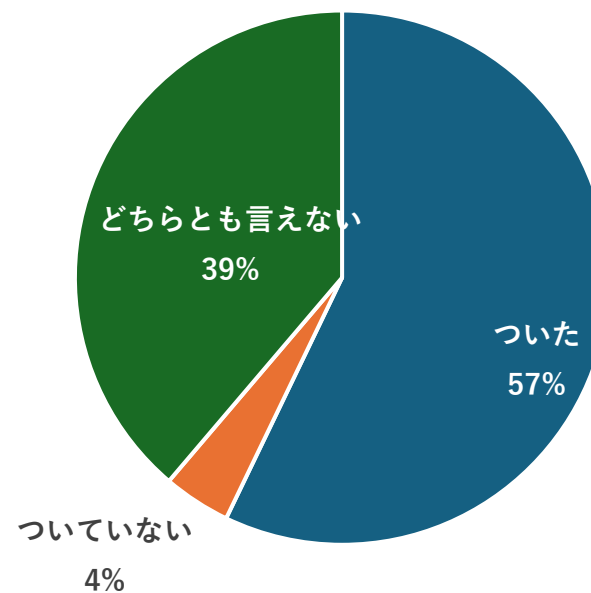


ACP研修 アンケート結果（受講後）

今後もACP研修を受講したいと思うか



研修を受けてACPの自信はつきましたか



【10/18 ACP研修受講後アンケート 学び・感想・ご意見】

- ロールプレイを通して、相手が話しやすくなる関わり方や質問の仕方を学んだ
- ACPは本人・家族との関係性や話すタイミングが重要であると理解できた
- 病院・訪問看護・施設など多職種での視点の違いを共有できた
- 傾聴や思いを引き出す難しさを実感した
- ACPを今後の実践に活かしたいという意識が高まった

コンサルテーション事業

電話：0件 対面：5件（面接1件、同行訪問4件）

【コンサルテーションの内容】

- 巡回随時対応型訪問介護・看護 1件
- ストーマケア 1件
- 褥瘡ケア 3件

全てのケースにおいて、「大変役立った」という評価であった
褥瘡ケアではケア方法の提案により治癒・改善に向かったケースが2件
すでに骨髄炎を起こしており早目の受診行動につながったケースが1件

コンサルテーションの1例



- 黒色壊死組織に覆われているが感染兆候などなし
- ゲーベッククリームを2ヶ月使用されているが変化なし
 - 黒色壊死組織の上から薄く塗布されていた
 - 健常な皮膚に薬剤が付着しないようにとの指示あり
- 除圧はできており、方法も問題なし
- 超高齢で経過を見てもよい状態であるが、痛みを軽減させたいので治療希望あり



- ゲーベッククリームの塗布方法を指導
- 外科的デブリードマン

特定行為の実施について
主治医へ説明
手順書の発行と
緊急時の連絡方法を確認

褥瘡の経過



【初回訪問】

ゲーベンクリームを
壊死組織の外縁部に
厚めに塗布を指示



【1ヶ月後の訪問】

壊死組織が周囲から浮いてきており
外科的でブリードマンが可能



【2ヶ月後の訪問】

手順書を用いて外科的
デブリードマン
痛みがなくなった



【4ヶ月後の訪問】

壊死組織は
ほとんど無く縮小



治癒

地域（ブロック）における協力体制についての気づき （効果や課題など）

今年度初めて教育ステーションを担当したことで、ステーション協会の活動や取り組みについてより深く知ることができた。また他の事業所と研修事業などの際に協力して話し合うことで、ブロック内での横のつながりが強化された。些細なことでも相談し合えるようになっている

一方で会議に参加しないメンバーや協力ステーション以外の方とは交流が持てず、ブロック全体に教育ステーションの役割や活動内容について、もう少し理解を深めるよう活動していきたい

設定した目標の評価

1. 多職種向けACP研修の実施により、地域でACPが実践できる人材を育成する

- ACP研修は目標参加人数を達成することができ、参加者も看護師だけでなく消防やケアマネジャー、病院や診療所スタッフなど多職種の参加があった。今後も継続して実践することでACPが実践できる人材を今後も育成していきたい。継続的に研修を実施することにより、泉州地域で働く訪問看護師の知識・技術の向上を図り、信頼を得られる、質の高い訪問看護サービスの提供を目指す。ACP以外に、訪問看護師から要望があった専門的なテーマで研修を実施した。アンケート結果から実践に活かせる内容であったとの意見が多く、問題解決につながったと考える。次年度以降も継続した研修を実施し知識・技術の向上を図る

2. 泉州地域内での訪問看護ステーションの横のつながりを広げ、シームレスな医療・介護の連携を図ることができる

- 複数の協力ステーションと協働して研修の運営を行なうことで、事業所間での情報共有ができ横のつながりが強化された。

教育ステーション事業全体の効果と次年度の課題

- 今年度初めて教育ステーションの役割を担い、何から実践すればよいかわからず、ブロック内での他事業書への協力依頼が上手く行えなかった。業務をしながら教育ステーションの役割を担うことが負担になるという声も多く、引き受けてもらえるステーションが少ないのが現状である。
- 次年度からは協ラストーションと役割分担し、教育ステーションの負担軽減とブロック全体で取り組みができるよう運営方法を見直していきたい。